

板橋区基本構想審議会 要点記録

会議名	第8回板橋区基本構想審議会
開催日時	令和7年2月25日（火）午後6時から午後8時まで
開催場所	板橋区役所 4階 災害対策室
出席者	<p>〔委員〕23人（敬称略）</p> <p>内藤二郎（会長）、岸井隆幸（会長代理）、大塚隆志、許俊鋭、佐藤知正、槌田博文、相田義正、小林英子、齊藤得彌、関口雅美樹、高田修一、福司慶子、望月由佳、木村縁理、濱崎希歩、田中やすのり、しば佳代子、おなだか勝、小林おとみ、佐々木としたか、鈴木こうすけ、尾科善彦、長沼豊（欠席：8人）</p> <p>〔幹事〕14人</p> <p>篠田政策経営部長、田中総務部長、三浦危機管理部長、平岩区民文化部長、家田産業経済部長、水野健康生きがい部長、丸山福祉部長、関子ども家庭部長、岩田資源環境部長、内池都市整備部長、田島まちづくり推進室長、宮津土木部長、林教育委員会事務局次長、雨谷地域教育力担当部長（欠席：1人）</p> <p>〔事務局〕小島政策企画課長、遠藤経営改革推進課長、大森財政課長</p>
会議の公開 （傍聴）	公開
傍聴者数	0人
議題	<p>1 中間答申の素案について</p> <p>2 その他</p>
配付資料	<p>1 板橋区基本構想審議会工程表</p> <p>2-1 中間答申の構成</p> <p>2-2 基本構想審議会中間答申（素案）</p>
政策企画課長 会長	<p>開会</p> <p>ただいまから第8回板橋区基本構想審議会を始めさせていただきます。初めに会長から一言ごあいさつを頂戴する。</p> <p>本日は、3月末に控えた中間答申の作成に向け、中間答申の完成度を高め、答申に繋げていくため、素案を確認していくので、よろしく願います。</p> <p>（政策企画課長から、資料の確認。以降、会長進行）</p> <p>1 中間答申の素案について</p> <p>前半と後半に分けて検討する。まずは、資料2-2の8ページまで説明をお願いします。</p> <p>（政策企画課長から、資料2-1～2-2 P8まで説明）</p> <p>前半部分は、全体のめざすところ、これまでの良いところを継続・踏襲し、それをいかに新たなステップに持って行き、改革を進めていくか。答申としての流れとともに、内容や表現、わかりやすさについても確認いただき、ご意見を伺う。</p>

委員	<p>まず、基本理念の「あたたかいところでともに歩む」について、小学校の道徳の授業でも使用される「多様性」というワードを、説明文の中に加えられると良い。</p> <p>「笑顔あふれるまちをみんなでつくる」について、区は、「安心・安全」という言葉を使うことが多く、昨今様々な事件もあるので、「安心していきいきと暮らせる」に「安全」も追加していただきたい。</p> <p>「ゆたかな環境を未来へつなぐ」について、様々な環境があるが、区民として重要である「住みよい環境」を追加できると良い。また、「循環資源による環境」も重要なワードなので説明文で触れられると良い。</p> <p>次に「将来像」について、「緑と文化のまち」が継承されているが、昭和 57 年に区制 50 周年を記念してつくられた区のアムニオン愛唱歌「愛するふるさと」の 1 番から 3 番に「ラララ 緑と文化の かおるまち あなたとわたしの 愛するふるさと」という歌詞が出てくる。今もふるさと体操として、スポーツ推進委員協議会で継承されており、このワードは、これからも必要だと思う。</p>
<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>将来像は、バージョンアップが必要であるので、変更案の方が良い。ただし、「未来をはぐくむ」から「未来を描く」に変わるだけでは、絵に描いた餅になってしまう。実現に導くため、「未来へ羽ばたく」や「未来を描き導く」など、もうワンステップ踏み込めると良い。この先の 10 年間を見据えた、区にとって重要な言葉であるので、もう少し話し合っただけの方が良いと感じる。</p>
<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>「将来像」の変更案についてさらに検討する必要がある。</p> <p>外国人人口が増加していると説明にあったが、17 ページの「多文化共生」以前に「共生社会」「多文化共生」「外国人」などの言葉が出てこない。これまでの議論でも、外国人が増えていることについて意見が多かったので、「多様性」という言葉だけでなく、具体的に表現した方が良いと感じた。</p>
委員	<p>今後 SDGs や CO₂ の問題など、時代の大きな転換点にあり、区の人口構造が大きく変わり、10 年後、子育て世代や元気なシニア層がいなくなってしまうか危惧している。各世代がバランスよく区に定着する 10 年後であって欲しい。これまで、区民が主人公であって欲しいというメッセージを伝えてきた中で、将来像に「緑と文化のまち」が残ることに少し疑問は残るが、「未来を描く」は、私たち区民一人ひとりが、能動的に区を創っていくと、主語として含まれているので、今までの継承と、これから、という意味で、変更案で良いと思う。</p>
<p>会長</p> <p>委員</p>	<p>諮問事項・趣旨は、諮問事項に対して、我々が議論に至るまで、それから、基本構想の位置づけや改定を行う背景は問題ないという認識で良いか。</p> <p>(意見なし)</p>
委員	<p>区民目線で、板橋の未来の姿がどのようなものか考えた時に、「緑と文化のかがやくまち」だけで実現できるのか疑問に思う。言葉の綺麗さや流れ、さわやかさを表現するのは、こういった言葉になるのだと思うが、区の将来像として、皆さんが理解できるのか、腑に落ちない思いもある。これを変えることも難しいと思うが、もう少し</p>

	<p>わかりやすい文言があればとも思う。しかし、区の歴史、基本構想の歴史を眺めていると、変更案のような表現に落ち着くと思う。</p>
会長	<p>こういった言葉選びは難しい。抽象的であると何を言っているのかわからなくなってしまうが、個別具体的なものは入れにくい。</p> <p>「緑と文化のかがやくまち」は、これまで繋いできた1つの区の特徴であり、区民に浸透しているという意見もあったので、大事にしつつ、具体的な内容としての改革の取組を後段に繋げたい。</p>
委員	<p>漢字とひらがなの使い方にはどんなルールがあるのか伺いたい。</p> <p>また、「緑と文化」を大切にすることも良いが、区民の豊かさを表す言葉がないので、経済的な豊かさ、精神的な豊かさ、いろいろな豊かさがあるが、どこかに入れられると良い。</p>
政策企画課長	<p>基本的には漢字を使っているが、例えば、基本理念の3つ目「ゆたかな環境」に関しては、キャッチコピー的な表現であり、やわらかさを伝えるという意図で、ひらがなを使っている。現段階では、このような使い分けとしている。</p> <p>また、経済的な豊かさについて、記載するとすれば、基本計画やその下の実施計画において、表現することとなると思う。</p>
会長	<p>現段階では、表記について明確な基準や方針がないので、読みやすさも含め、漢字とひらがなのどちらが伝わりやすいか、区民としての視点も重要だが、答申を作成するという意味では、委員としての視点も重要であるので、改めて確認し、気づいた点があったら伺いたい。</p>
委員	<p>漢字の方が伝わりやすい。「まち」や「こころ」もひらがなが使われている。特に「まち」の使い方についてはどのように考えているか。</p>
政策企画課長	<p>区の内部では、「まち」と表記を使用することが多いため、ひらがな表記としているが、皆様の視点で、より伝わりやすくするためには何が良いか、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
会長	<p>「まち」か「街」が多く、「町」はほとんど使われていない印象がある。「まち」という言葉の意味がどんどん広がり、単にハードの意味のまちだけでなく、ソフトの面のコミュニティなども含め、あえてひらがなを使っているところが多い。</p> <p>また、豊かさについては、将来像に直接言葉を入れなくても、どこかで豊かさがわかるようにできると良い。</p>
委員	<p>私もひらがなの「まち」を使う。表記で意味が異なる。</p> <p>将来像について、「未来を描く」は、頭の中で思い浮かべているような印象であり、主体的に未来を創造し、実現に向けて行動するのであれば、「描く」はふさわしくない。「切り拓く」では強いので、「拓く」はどうか。皆さんの意見も伺いたい。区民が主体的に行動することが重要である。また、描かれている未来は、定まったものではなく、もっと良いものがあれば、それを実現できるという見せ方ができると良い。</p>
会長	<p>将来像は、今1つに決めなくて構わない。起草委員会で、審議会で出た意見を集約</p>

	<p>してもらい、1つに決めていくことになる。</p> <p>2つの案は、後半部分と頭の未来は全く同じで、「はぐくむ」か「描く」かのみの違いであるが、事務局から補足はあるか。</p>
政策企画課長	<p>区民が主人公、区民の主体性という視点が必要だと事務局も考えている。「絵本のまち」という区の特徴を感じられるような表現を検討し、その中で、「描く」と「彩る」という案が出たが、「彩る」よりも「描く」の方が主体的に行動し、つくり上げていくという表現であることから、一旦、この案を提示させていただいた。様々な案を伺いたいと考えているので、引き続きご検討をお願いしたい。</p>
会長	<p>区としての考え方を反映させ、我々としても納得できることが重要である。なぜ、ここがそのように変わったのか、我々や区、区長の意志が感じられるよう意識して考えていく必要がある。</p>
委員	<p>変更案でも良いと思うが、たった1つの動詞でも変更したら、後付けではなく、みんなが納得する理由がなければならない。</p> <p>資料の中で、関連させると説得力があるものを探したところ、1ページの諮問に「次の10年に見据えますと、～「VUCAの時代」に、新たな未来を切り拓いて」と区長の強い意志が出ている。今まで優しくはぐくんできたものを、行動に結びつけ、もう1歩踏み込んでアクションを伴い、拓いていくとする。先ほど「切り拓く」だと強すぎるという意見があったが、この辺に引きつけると、多くの人が納得し、不安な時代で、もう1歩先に行こうと賛同してくださる方が増えると思った。</p>
委員	<p>「ひらく」は、「拓く」か？</p>
会長	<p>諮問事項では、「拓く」となっている。</p>
委員	<p>起草委員会でも出ていたのか。</p>
会長	<p>出ていたようである。</p> <p>より良い未来を見据えつつ、単に描くだけではなくて、アクションに繋げていこう、やってみようという思いがみんなに伝わる方向性については、共通認識ということでよろしいか。</p> <p>また、夢を見る、描くことも重要だが、そこに向かって進んで行こうという意図を持ってこの言葉にしたと言えるものを選ぶということで良いか。今日でなくても構わないので、考えてみて欲しい。</p>
委員	<p>起草委員会では、どのような議論がなされたのか伺いたい。</p>
会長代理	<p>事務局から出てきた案には、「はぐくむ」はなく、10年で変える必要があるのかと指摘した。変えるのであれば、説明がつくもので、「はぐくむ」のその先に行かなければならないと考えた。いくつか意見が出たが、これというものに思い至らず、一旦、現行の将来像と事務局の案を提示し、皆様のご意見をいただくこととした。</p> <p>この10年で何を実施し、今の問題意識はどこにあり、その先の新しいチャレンジをするのか、これまでの取組を継承してさらに強化するのか、はっきりわかるようにしたい。ぜひ前回から、1歩前に行く、アクションが伴う案が欲しい。</p>

会長	<p>それでは、そういった方針で、次回までに事務局に意見を寄せて欲しい。方向性は合意形成ができていますので、あとは、いかに我々の意志を示しつつ、それにできるだけ近い表現にしていくかである。</p>
	<p>7ページについては、将来像が確定した時点で、それにさらに合う形で、説明を変化させていくことになる。</p>
委員	<p>6ページの「つながりと愛着にはぐくまれている」という表現について、愛着が区や区政に対するものを意味するのであれば、「つながりと愛着」という表現は、違和感がある。</p>
政策企画課長	<p>次回までに適切な表現を検討させていただく。</p>
会長	<p>何をやるかを踏まえて、どのように進んでいくだけでなく、進んでいった先にどうなるかという像を言葉にしたものであるので、わかりやすさが重要である。区への愛着も重要だが、区民として、コミュニティの中で自分、自分の周り、全体がどうなっているかイメージが描けるような表現を検討いただきたい。</p>
委員	<p>基本理念「ゆたかな環境を未来へつなぐ」について、区は、(仮称)環境基本計画2035の将来像として「みどりをはぐくむ、循環・共生・協創のまち」を掲げており、この「循環」という言葉を、しっかり追加するという意見も重要である。</p>
会長	<p>それでは、前半の総論に当たる全体像についての確認は以上とし、後半に移っていく。後半は、まちづくりビジョンを具体化していく中で、我々が分野別に議論してきたことを記載していく部分である。細かい点が多いが、こちらも大きな流れを確認していただきたい。まずは事務局に説明をお願いする。</p>
	<p>(政策企画課長から、資料2-2 P9以降を説明)</p>
会長	<p>各論の部分であり、区の取組姿勢にも関わってくるが、様々なテーマが繋がっている。まず、将来像をどのような形で具体化していくかのまちづくりビジョン、これまで議論してきた分野別の内容が記載されており、次に基本構想を実現するための方策、施策のあり方とともに、最終的に区政経営のあり方という構成についてはよろしいか。ご意見を伺う。</p>
委員	<p>内容に異論はないが、「まちづくりビジョン」という名称に違和感がある。区の計画では、ビジョンという言葉がよく使われているが、これは、基本構想であり、区の10年後を見据えた将来像をめざす姿である。まちづくりビジョンは都市計画のような印象を受けてしまう。子育て安心ビジョンなどは、基本計画で使う言葉ではないか。例えば「9つのめざす姿のキーワード」や「取組目標」「展望」「方針」などとしてはどうか。いかにも役所が好む言葉ではなく、区民が見ても、9つのめざす姿だということがわかるキーワードにして欲しい。現在の基本構想でも使われている言葉なので、変えられないのであれば、やむを得ないが、ブラッシュアップし、素敵な基本構想ができてきているので、この9つがものすごく重要となると思う。</p>
委員	<p>全体として評価できるが、11ページの産業で触れられている「絵本のまち」だけでなく、もともと区が持っている自然、緑や文化も観光資源であり、大きな産業の一角</p>

	<p>である。17 ページの施策のあり方では、観光の項目が1つあるが、めざす姿においても、観光業により訪れてみたくなるまちにしていくとか、「観光振興」「観光資源」「開発」という言葉を追加し、観光について打ち出しても良いのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>1つ目、9ページの教育では、「子どもから大人まで」、その他は全般的に「子どもから高齢者まで」となっているのは意図があるのか。</p> <p>2つ目、11ページのスポーツ・文化に「板橋らしさを感じるスポーツや文化」とあるが、板橋らしさを感じるスポーツとはどのようなものか。</p> <p>3つ目、「一人ひとり」「区民一人ひとり」と統一されていないが、どのような使い分けになっているのか。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>1つ目の「子どもから大人まで」について、例えば福祉では、分野の特徴を捉え、高齢者とし、教育では、生涯学習という観点から、大人という表現を使用したか、ご意見を伺い、わかりやすくなるよう検討が必要だと感じた。</p> <p>「板橋らしさを感じるスポーツ」については、区の特徴となるスポーツがあるということではなく、スポーツ活動する場所などの面をイメージしているが、こちらも、よりわかりやすく再整理させていただく。</p> <p>「一人ひとり」の使い方に関しては、精査しきれてない部分があるので、次回に向けて、再精査させていただく。</p>
<p>会長</p>	<p>まず、事務局に再検討していただき、起草委員会を経て、次回の中間答申に繋げていくということとしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>教育について、学力の向上という視点も追加していただきたい。例えば、今、区外の私立中学志向のようなものがあるが、区内には、良い中学校がたくさんある。学校や地域で学力を向上させるための教育をし、その結果学力が上がることで、笑顔になることが望ましいと思う。</p> <p>それから、16ページの教育の部分に「多様性を尊重した誰一人取り残さない教育の推進」とある。この「誰一人取り残さない」という言葉は、SDGsの時代に防災などにおいても好まれて使われているが、教育者に対して負担を与えることになるように思うので、取り除いて欲しい。</p>
<p>委員</p>	<p>10ページの健康の「人生100年時代を迎える中、誰もが生涯を通じて生きがいを感じ」は良いが、「すべての人が健康で自分らしく輝けるまちを実現します」は、介護寿命という健康ではいられない期間があることを踏まえると、すべての人が実現することはできない。「はぐくむ」と同じようなニュアンスで、めざしていくという姿勢だけでも良いのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>8ページの図では、オレンジの部分が「安心して住み慣れた地域で暮らせるまち」となっているが、その前後の項目は「誰もが」「すべての人が」から始まっているので、「誰もが安心して住み慣れた地域で暮らせるまち」とした方がわかりやすい。10ページの表題も同様である。</p> <p>また、その下の健康に「誰もが「いのちと健康」を尊重し」とあるが、「いのち」</p>

<p>政策企画課長 委員</p>	<p>という表現に飛び抜けたような印象を持った。 言葉の使い方が適切か、改めて精査させていただく。 11 ページの産業に「板橋産業ブランドの確立に向けたまちづくりを進めることが大切」とあるが、「板橋産業ブランド」と「まちづくり」の関係性は、どのように捉えれば良いか伺う。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>下の説明の中段のとおり「区内外に板橋産業ブランドが根づき」とし、さらに「魅力的なイベントや商店街が地域に愛され、まちの活気とにぎわいがあふれている」ことも含めて表現する中で、まちづくりを進めると表現としたが、わかりにくいようであれば、整理させていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>まちづくりとブランドは全く異なる分野だと思う。全然違う方向で捉えられてしまうこともあり得るし、審議会の中でも出ていたスタートアップにも位置付けられると思う。どの分野をどのように認識すれば良いか整理していただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>文言の繋がりとして、どちらも重要だが、噛み合っていない部分を再度検討していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>16 ページ「子どもの学びを保障する多様な学びの推進」と「多様性を尊重した誰一人取り残さない教育の推進」に関連するが、区も、不登校児童生徒数が増加している。平成7年11月に板橋フレンドセンターが設置され、平成19年に旧板橋第四中学校跡地に移転した。不登校児童生徒にとって、家庭・学校以外で安心して過ごせる居場所となるべく、運営等の改善を行っている。フレンドセンターの通級の日数は、区内公立在籍校での出席数に加算される。</p>
<p>委員</p>	<p>高校進学時にチャレンジスクールを受験する生徒が多いため、フレンドセンターにおいても入学試験の面接・作文の指導がされている。チャレンジスクールは、主に小中学校での不登校や、高校での中途退学により、これまで能力や適性を十分に活かし切れなかった生徒が自分の目標を見つけ、それに向かって挑戦する高校である。自分のライフスタイルや学習のペースに合わせて、3部の時間帯を選んで入学できる。アドバイザーや学生ボランティア等のスタッフの充実が課題である。 これまでの議論を反映させ、19 ページに横断的に取り組むべき戦略の必要性という項目を設けていただいたことは、素晴らしいが、ウェルビーイングという言葉が出てこない。健康の部分では出てくるが、心身の健康、社会的な健康という定義づけがなされているものの、健康に回収されるべき問題ではなく、分野横断的に取り組まれるものだという議論をしてきたので、19 ページに明示してはどうか。ウェルビーイングの概念をみんなで共有し、共通理解とするのは難しいと思うので、注釈を付け、これから10年間かけて考えながら実践していくというスタンスであると大変良い。</p>
<p>委員</p>	<p>17 ページに「健康保険制度の適正な運営とマイナンバー保険証普及に向けた周知」とある。以前、「国民健康保険・後期高齢者医療制度の適正な運営」という表現は具体的すぎるのではないかと指摘したが、「健康保険制度」よりも「皆保険制度」の方が、思いが伝わるのだが、変更できるか</p>

	<p>また、マイナンバー保険証の普及については、色々と議論もあり、不安を抱える方がおり、医療機関等の準備もできてない中で進めようとしているが、基本構想はすべての部分をみんなが納得し、賛成できるものにしていく必要があるので、あまり具体的に表記しない方が良いと思う。DX化については、全体の流れの中にも入っているので、保険証だけを取り上げなくても良いのではないかな。</p>
会長	<p>意見が分かれると思うので、これまでの議論を踏まえて検討する必要がある。</p>
委員	<p>16 ページの子ども・若者の4つ目に「ライフスタイルに応じた妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援の拡充」は、「板橋区版ネウボラ事業」が確立されている。審議会において、横文字がわかりにくいなどの意見もあったが、区として、しっかりと、妊娠期から切れ目のない支援を「板橋区版ネウボラ事業」として展開しているので、明記できないか。</p>
委員	<p>9 ページの子ども・若者の「めざす姿」では、6 ページと同様に「板橋区に愛着や誇り」とあるが、14 ページには、「区での暮らしに愛着と誇りが感じられる」とある。「区に愛着と誇り」は表現が強いと感じる。「区での暮らしに愛着と誇り」とすると、区で暮らせてよかったと、みんな、しっくりくるのではないかな。私個人としては、「区での暮らしに愛着」の方が良いと思う。</p>
委員	<p>16 ページの「誰一人」や10 ページの「すべての人」という表現は、0 か 100 かになってしまうので、「誰一人」は「できる限り」、「すべての人」を「あらゆる人」としてはどうか。</p>
委員	<p>14 ページ(4)基本構想を実現するための方策「③愛着と誇りを育むための魅力の創造の発信」は、新たに入れたと説明があったが、今まで、区では積極的に発信をしていなかったと思う。20 ページの(3)基本計画を推進する区政経営のあり方「3 板橋ブランドの確立と効果的・戦略的な情報発信」も新たに入れたということ。</p> <p>今後、行政は、区民に積極的に伝えていくことに取り組む必要がある。情報共有を含め、これから10年後も板橋に住んでもらうため、板橋を知ってもらうことが重要であるので、14 ページと20 ページの表現は、統一した方が良いのではないかな。</p> <p>あらゆる情報の発信が重要である。板橋ブランドの確立と括るのではなく、14 ページを「愛着と誇りを育むための」とするのであれば、20 ページの区政経営にも、そのような文言を入れ、整合性を取った方がわかりやすい。</p>
政策企画課長	<p>14 ページの基本構想を実現するための方策に3点挙げているが、①は、10年前と同様の位置づけ、②は、発展させた形に変更、③は、今回新たに位置付けたものとなる。</p> <p>20 ページの基本計画を推進する区政経営のあり方に示した3つについては、10年前は、プロモーションなどとして文章の中に盛り込んでいたが、よりわかりやすくするために今回細分化したものである。14 ページと20 ページの表現の関係に関しては、ご意見を踏まえ、整理させていただく。</p>
委員	<p>今、社会的に不登校の生徒が多いと聞いているので、今後10年間でしっかりと解</p>

決方法を考え、子どもたちが少ない中で、そういった子どもたちが少しでも少なくなるようにしていく必要がある。9ページの教育の部分に追加できると良い。

会長

16 ページの教育の「誰一人取り残さない」にそういった要素も含まれていると思うが、改めて検討すべき事項である。

表現・文言の整理については、ご意見を踏まえて整えていき、表現や繋がり、もう一度全体を整理したい。

13 ページまでは、これまでの審議会での議論がまとめられている。もっと追加したいこともあると思うが、多過ぎても分散してしまうので、集約されている。これまでの意見は、参考資料にまとめられているので、ご覧いただき、意見を具体的に答申に盛り込んでいくときに、どのような表現にするか、どのように区分けするかという視点で、改めて確認していただきたい。16～17 ページは、13 ページ目までの内容を踏まえ、さらに施策のあり方として記されており、リンクしているので、文言等々確認をお願いする。

19 ページのタイトルが若干気になる。「施策・組織横断的に取り組むべき戦略の必要性」というよりは、「取り組むべき課題とその戦略の必要性」という印象である。他は、「何々するための方策」とか「何々のあり方」となっていて、確かに必要性が書かれているが、実際はその課題であると感じる。修正した方が、皆さんからの意見がよりはっきりすると思う。

また、14 ページと 20 ページが、基本構想を実現するための方策、区政経営のあり方ということで、区の意志表示であり、繋がりが重要で、区がこういう方針、意志で取り組むということ、区民が読み取れるかご確認いただき、意見を伺いたい。

この審議会で議論してきた区、区民にとって大事なことを踏まえて進めていくことについて、区がどういう姿勢で取り組むかを示すのは、区民に対して重要であり、区のあらゆる部署でこれを共有して進めていただく上で、我々からの提言があっても良いと思った。

委員

「生産性の高い職場」とか「効率的」も重要だが、公の役割を忘れないということも示せると良い。

会長代理

皆さんのご意見を踏まえて、起草委員会で文章を修正していくが、中間答申の構成についても改めてご確認いただきたい。前回の答申と同じ構成だが、前回の諮問は、人口減少・超高齢社会に対する問題意識があったため、答申は、その対応が書かれていた。

今回は、不確実性の高い要素が増えてきているので、チャレンジングな変革に取り組むと諮問に書かれているが、答申は同じスタイルで応えられるのか。施策のあり方は、前回同様に各項目が羅列されているが、現基本計画と比較したときに、何が新しく、何に力を入れて取り組むのか、やや見えにくい印象があり、もう少し工夫したいと個人的には思っていた。

それから、横串は、前回の答申にも含まれており、「高齢者の健康づくり、文化・

<p>会長</p> <p>会長代理</p> <p>会長</p> <p>会長</p> <p>政策企画課長</p> <p>会長</p>	<p>スポーツ活動、介護認知症予防、生涯学習、生きがい就労、地域活動・ボランティア活動、子育て支援などの様々な施策と連携し、健康寿命を長くする」と書かれているが、現在は、きちんとやっているから書いてないということで良いか。各部署の方は、書いたことは、しっかりとやるつもりで書いていただきたい。</p> <p>横串をどうするかという視点で、方針や取組姿勢を点検いただきたい。それを各部署が、このような姿勢で取り組んでいくと明記すると、区民に対する意志表示であると同時に、当事者としての自分が確認でき、そういった意識を持って業務にあたることで、横串がより有効になると思う。</p> <p>従来は、はっきりと書かれていなかった3つの視点を前面に出し、それに対する施策について各部署が何をやるのか記載することは、あってしかるべき。その構成の方が区民からもわかりやすいと感じる。</p> <p>変わった点を示すことは重要である。一部でも明示する方が、より新たな10年に向けて、という雰囲気になるかもしれない。</p> <p>最後に私や会長代理が述べたことを踏まえて、ご意見等があれば、意見シートを事務局に提出いただきたい。</p> <p>今日の議論を踏まえて、この中間答申の素案と、審議会で議論をしてきたことがまとめられている参考資料を見ていただき、もう一度全体像を確認した上で、最後の中間答申の3月28日に臨んでいただくと、しっくりくるところと、違和感があるところがよりはっきりすると思う。</p> <p>2 その他</p> <p>最後に事務局から連絡をお願いする。</p> <p>長時間にわたるご審議に感謝申し上げます。</p> <p>3月6日の起草委員会にて、本日の意見を踏まえて、中間答申案を起草していくが、意見があれば、意見シートを提出いただきたい。</p> <p>次回の審議会は、3月28日金曜日、午後1時から、区役所北館11階の第一委員会室で開催する。なお、途中から区長に出席いただき、中間答申をお渡しする。開催日が近づいたら、開催通知を送付させていただく。</p> <p>次回は、先ほど申し上げたことを確認して、臨んでいただきたい。いよいよ大詰めになってきたが、次回以降もよろしく願います。</p> <p>本日も長時間にわたり、ご協力感謝する。</p> <p>閉会</p>
<p>所管課</p>	<p>政策経営部政策企画課総合計画係（電話3579-2013）</p>